

北海道後期高齢者医療広域連合への職員派遣

小川 結衣さん

帯広市出身。令和3年度に芽室町役場に入庁。趣味は好きなプロ野球チームの応援や好きなアーティストのライブに行くことで、好きなぬいぐるみと一緒に参戦しています。



▲芽室町から北海道後期高齢者医療広域連合への派遣は、小川さんがはじめて。

『スキルアップにつなげたい』
小川さんは入庁後、子育て支援課児童係に5年間在籍。そろそろ別の部署への異動があるかもと漠然と思っていた中で、今回、派遣の打診があったそうです。近年、芽室町役場では職員派遣や職員交流を実施していますが、自分が該当者になると思ったこともなく、特に派遣希望もなかったと言います。しかし、打診を受け「役場とは異なる広域的な視点での仕事を学び、自分自身のスキルアップにつなげたい」と派遣を決断しました。

このたび、芽室町から北海道後期高齢者医療広域連合（札幌市中央区）に2年間の派遣が決まった小川さんにお話を伺いました。
北海道後期高齢者医療広域連合とは……後期高齢者医療制度を運営する特別地方公共団体です。高齢者の医療の確保に関する法律により全ての都道府県ごとに置かれることになり、北海道後期高齢者医療広域連合は、法律に基づき北海道内全ての市町村の総意により設立。北海道内の市町村、北海道国民健康保険団体連合会から派遣された職員で構成されています。
今後さらに高齢化が進み、高齢者の医療費増大が見込まれる中で、安定した財政運営を行うための取り組みを行っています。

北海道後期高齢者医療広域連合では、自分と同じように道内の市町村などから派遣されてきた職員と一緒に仕事をしていきます。後期高齢者医療制度の運営という今までは違う業務に携わることになる小川さんは「新しい事を覚えなければならぬ。今までとは違う初めてだらけの仕事なので、まわりにかかりきれない心配と不安を口にします。それでも「対象は子どもから高齢者へと変わるが、5年間携わってきた医療や給付に関する知識は役立つと考えている」と自信をのぞかせます。

『推しチームの応援は活力』

一生懸命仕事に打ち込む小川さんは趣味にも全力。推しの野球チームの応援にはお気に入りのグッズをもって応援。「推しチームの応援は私にとって活力です」と笑顔を見せます。最後に意気込みを伺うとそれまでの笑顔が一変し「全道から職員が集まる活気ある職場で、札幌という新しい環境に身が引き締まる思い。初めての異動が派遣で、仕事も札幌での暮らしも慣れない環境となるが、一日も早く業務を覚え、貢献できるよう頑張る。2年後戻ってきた時には、派遣先で学んだ経験をしっかりと芽室町に還元できるように、一生懸命学んできた」と真剣な表情で答えてくれました。小川さん、2年間頑張ってください！



▲大切な推しグッズの写真を提供いただきました！